

氏名	押野 修司	部署	作業療法学科	職名	准教授
研究分野	発達期作業療法学、専門職連携教育、動物介在療法				
学位	修士（リハビリテーション）				
学歴	1987年明治大学政治経済学部経済学科、1991年専門学校社会医学技術学院作業療法学科、2003年筑波大学大学院教育研究科カウンセリング専攻リハビリテーションコース、2017年首都大学東京大学院人間健康科学研究科作業療法学域博士後期課程単位修得退学				
経歴	1999年埼玉県立大学保健医療福祉学部助手、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	動物介在教育・療学会（理事）、埼玉県作業療法士会（理事）、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会（理事）、日本作業療法士協会、日本リハビリテーション連携科学学会				

【2025年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作(著書及びその他の著作物)							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	保健医療福祉のアントレプレナーシップ 第1章 埼玉県立大学のアントレプレナー シップの源流と今後の展望、第15章 学 校・家庭・地域をつなぐ～発達障害児を 支えるチームの力～	共著	あり	埼玉県立大学 アントレプレ ナーシップ出版部、全101 ページ		上原栄一郎・久保田富夫 編著、押 野修司 他	2026.3
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ペー	著者、編者名	発表等年月
1	高齢者施設における伴侶動物との共生の ためのケアスタッフを対象とした支援内 容項目の検討-デルファイ法を用いた調査 -	共著	あり		ヒトと動物の関係学 会誌、72、P.70-77	田島明子、安藤孝敏、押野修司、 安野舞子	2025.12
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者(発表者は○印)		発表等年月
1	高齢者施設における伴侶動物との共生の ための支援内容項目の検討ーデルファイ 法を用いた調査ー	共同	動物介在教育・療法学会 第 18回学術大会、周南市		○田島明子、安藤孝敏、押野修司、安野 舞子		2025.8
2	埼玉県立大学におけるアントレプレナー シップ教育の醸成に向けてー保健医療福 祉分野におけるアントレプレナーシップ 教育の効果ー	共同	第59回日本作業療学会、 高松市		○上原栄一郎、久保田富夫、臼倉京子、 押野修司、水野高昌		2025.11
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等		発表者(発表者は○印)		発表等年月
1	作業療法教育における生成 AI 活用ー教 育支援の最前線ー	共著	作業療法ジャーナル 60巻1 号(三輪書店)		○押野修司、小池祐士、田坂翔太、久保 田富夫		2026.1
2. 競争的資金等の研究							
	競争的資金等の名称	研究名			研究代表者・研究分担者の別		研究期間
1	該当なし						

3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	スタートアップ・セミナー		12	新入生に対し、「キャンパス・ライフ」や「学術文書の書き方」等の基礎的学修スキルを講義した。また、PBLにおいて「課題分野の決定」から「最終プレゼン」までの一連のプロセスを指導し、初年次教育に貢献した。
2	作業療法学概論		3	発達期領域における作業療法の概要について、学生が自らの言葉で説明できるよう指導した。また、グループワークを導入し、作業療法を知らない一般の人に向けて分かりやすく伝える方法を検討・発表させ、実践的なプレゼンテーション能力を育成した。
3	生活環境技術学		1.5	革細工「革小銭入れ」の製作等を通して活動分析を実施した。活動分析に必要な視点や事項について、他作品の製作例を交えながら臨床に即して実践的に解説した。
4	小児保健看護学		2	養護教諭を目指す学生を対象に、発達障害の子どもの捉え方や福祉用具の適応について解説した。動画教材を用いて脳性麻痺、知的発達障害、自閉スペクトラム症等の特徴を視覚的に分かりやすく指導した。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	作業療法研究法		2	卒業研究の進め方や実践科目（研究A・B）の概要、ゼミ決定に関する説明を実施した。また、学部学生用の倫理チェックリストや最終発表会のプログラム作成等、研究倫理の徹底と円滑な運営に向けた指導・環境整備を行った。
2	生活環境技術学演習		3	革細工「革小銭入れ」の製作を通して活動分析を実施した。製作過程においてその場で感じたことを記録できるようワークシートを活用し、学生相互の作品鑑賞を取り入れることで、完成品に対して多角的にコメントし考察する経験を積ませた。
3	発達期作業療法学演習		12	定型発達の理解を深めるためビデオ教材を併用した。疾患別の作業療法ではグループ学習を取り入れ、学生の調べ学習に対し複数回コメントや助言を行い、知識を臨床場面に応用する臨的思考力の涵養を図った。
4	発達期作業療法学特講	○	15	発達期作業療法における臨床思考過程の学修と、支援の基本的概念の理解を目的とした。臨床家から提供された動画や事例概要を用いた実践的なグループワークを実施し、多角的な視点を育成した。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	発達期作業療法学実習	○	23	科目責任者として実習全体の運営と指導計画を統括した。越谷市等と連携した保育見学実習の推進に加え、地域で募集した親子にご協力いただき観察実習を実施した。さらに、臨床家を招聘し、実際の業務と多職種連携の重要性について理解を深める指導を行った。
2	基礎作業学実習		15	作業療法臨床場面における作業活動を実際に体験させ、その特徴と心身への影響について実践的に指導した。学生が自ら選択した作品を完成させ、活動分析や治療的意味を深く考察できるよう支援した。

3	作業分析学実習		10	3Dプリンタを用いた自助具作製指導を実施した。対象者の抱える生活上の困難把握から自助具の考案、3Dモデリングでの設計、適合性のシミュレーションといった一連の臨床的思考プロセスを体験させた。
4	義肢・装具学実習		2	3Dプリンタを活用する作業療法士等の外部講師を招き、製作紹介や義肢ユーザーによるデモンストレーションを実施することで、学生の実践的理解を深め視野を広げる指導を行った。
5	臨床作業療法技能実習		1	臨床実習に向けた最終準備として、模擬患者に対する初回面接を実施させるなど、臨床現場で求められる実践的なスキルと基本的技能・態度の確認と指導を行った。
6	IPW実習①		8/26～29（4日間）	精神科デイケアにおいて実習を実施。施設側との綿密な事前調整を行い、本学の複数学科と他大学薬学部からなる混成グループのファシリテーションを担当し、専門職連携の意義と実践を指導した。担当5名。
7	臨地体験実習（身体機能）		2026/2/16～3/6（15日間のうち1日）	回復期リハビリテーション病院において、臨床実習指導者（SV）の監督のもとで身体機能領域の臨床活動を体験する実習である。教員は実習の地点において訪問し、学生の心身の状況や実習の進捗を把握し、学生とSVの面談を行い、必要に応じて指導内容の調整を行った。担当1名。
8	臨地体験実習（精神機能）		8/25～9/12（15日のうち1日）	担当施設には精神科病棟およびデイケアを有していたため、各施設において各1名の学生を受け入れていただいた。臨床実習指導者（SV）の監督のもとで臨床活動を体験する実習である。教員は実習の地点において訪問し、学生の心身の状況や実習の進捗を把握し、学生とSVの面談を行い、必要に応じて指導内容の調整を行った。担当2名。
9	臨地体験実習（高齢期・発達期）		2026/2/16～3/6（うち10日間、中間地点での電話確認のみ）	高齢期施設3施設（老健2、病院1）、発達期施設4施設（病院1、重症心身障害児施設1、児童発達支援事業所2）を担当した。対象者の生活機能障害への理解を深め、専門職業人としての基本的態度を学ぶ実習であった。1施設に複数の学生が配置されたため担当学生11名。
10	臨地総合実習（身体機能）		前半：4/7～5/23、後半：6/2～7/18（7週間×2期）	前半は、回復期病院2施設、学生2名を担当した。後半は、急性期病院1施設、学生数1名を担当した。教員は実習の地点において訪問し、学生の心身の状況や実習の進捗を把握し、学生とSVの面談を行い、必要に応じて指導内容の調整を行った。
11	臨地総合実習（精神機能）		前半：4/7～5/23、後半：6/2～7/18（7週間×2期）	前半は、精神科デイケア施設1施設学生1名を担当した。後半は、精神科病院1施設、精神科デイケア施設1施設、学生数2名を担当した。教員は実習の地点において訪問し、学生の心身の状況や実習の進捗を把握し、学生とSVの面談を行い、必要に応じて指導内容の調整を行った。
（4）論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2025.4～2025.11	主指導 1名	副指導 12名
（5）その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	24期生学年担任	2025.4～2026.3	学年担任として、修学や進路に関する個性を重視した支援・指導を年間を通じて実施した。また、PT・OT合同就職説明会の主担当として県内外の施設に働きかけ、求人票やPR資料を収集・提供し就職活動を支援した。	

2	アントレプレナーシップ教育プログラム ファシリテータ（教育・研究・地域連携 の一体的推進事業の共同活動教員とし て）	2025.8～2025.9	大学生および専門職向けプログラム（8/9～10）、高校生向けプログラ ム（9/20）に大学生・専門職向けおよび高校生向けプログラムにおい てファシリテータを務めた。参加者が社会課題を発見し、解決策を構 想できるよう支援し、大学の教育改革の推進に貢献した。	
3	専門職連携講座 講師・ファシリテータ （専門職連携教育研修センター委員とし て）	2025.5～2025.10	専門職連携教育研修センター准教授として、「チームワーク研修」 「IPW実習」「事例検討」等の講座を主導的立場から運営し、グルーブ ワーク等のレクチャおよび実践指導を行った。	
4	24期生卒業研究最終発表会運営	2025.11	最終発表会の運営を主導し、学生が研究や開発成果（学外コンテスト への参加成果等を含む）を適切に発表し、学術的な討議を経験できる 場を整備・支援した。	
4. 社会貢献活動				
（1）講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	チームビルディング研修	社会福祉法人 誠 会	「グループワーク、リーダーシップ・メンバーシップ」を テーマに実践的研修を実施。	2025.6～7 （計2回）
2	オープンカレッジ講座	埼玉県立大学	「小学生～教員・専門職向け3Dプリンタ講座」の補助講師 を担当。	2025.7～ 2025.9（計 6回）
3	リアル体験教室	埼玉県	リアル体験（小学生4～6年生）サブ講師として参画。	2025.7
4	出張講座	武蔵越生高等学 校	武蔵越生高等学校にて「作業療法概論」の講師を担当。	2025.9
5	スタッフ向け研修会	社会福祉法人 埼玉福祉会（児 童発達支援・放 課後等デイサー ビスさいふく）	児童発達支援施設において、療育に関する月1回の研修会を 企画・運営。	2025.4～ （月1回継 続）
（2）国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称	任期
1	一般社団法人 埼玉県作業療法士会		理事・学術部長	2025.6～2028.5
2	一般社団法人 埼玉県作業療法士会		『作業療法学芸雑誌』編集委員	2025.6～2028.5
3	特定非営利活動法人 動物介在教育・療学会		理事	2025.1～2027.12
4	特定非営利活動法人 動物介在教育・療学会		学術誌編集委員	2025.1～2027.12
5	一般社団法人 日本作業療法士協会		学術誌『作業療法』査読者	2025.4～2027.3
6	一般社団法人 日本作業療法士協会		日本作業療法学会 演題審査委員	2025.4～2027.3
7	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会		理事・会計担当	2025.4～2028.3
8	日本リハビリテーション連携科学学会		『リハビリテーション連携科学』査読委員	2025.4～2027.3
（3）ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称		内容	年月
1	該当なし			
（4）その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	千間台西町会 子ども会	子ども会主催の「なつやすみ 3D 教室」において、地域の児童を対象 とした体験運営スタッフとして協力した。	2025.7
2	地域貢献活動	埼玉県立春日部特別支援学 校宮代分校	施設への3Dプリンタ導入支援を実施した。	2025.8
3	地域貢献活動	初台リハビリテーション病 院	病院でへの3Dプリンタ導入支援を実施した。	2026.1～2（合計3 回）
4	地域貢献活動	知的障がい者サッカース クールFC ALMA	知的障がい者サッカー体験会＆体力測定会2025を共催し、測定や運営 面からスポーツ支援に貢献した。	2025.9

5	地域貢献活動	特定非営利活動法人 動物介在教育・療学会	第18回学術大会にて、口頭発表セッションの座長を担当した。	2025.8
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	専門職連携教育研修センター准教授として専門職連携講座等の運営や「彩の国連携力育成プロジェクト」の会議出席など大学連携事業に貢献した。		2025.4～現在
2	学科等における委員会等	地域産学連携委員会委員		2025.4～現在
3	学長指定プロジェクトへの関与	「教育・研究・地域連携の一体的推進事業」におけるアントレプレナーシップマインド醸成に向けたプロジェクトに、教員として活動に参画した。		2025.4～2026.3
4	学科等における委員会等	有害物質等管理者		2025.4～現在
5	大学広報活動	オープンキャンパスにおける相談会担当、および入試における役割を担当し、大学の広報活動に貢献した。		2025.4～現在
6	大学広報活動	高校生向け合同学園祭「DreaMeet」（イオンレイクタウン開催）において、作業療法学科のブースの運営を担った。3Dプリンタ製作グッズの提供等を通じて、大学の魅力発信と志願者確保に貢献した。		2026.2
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名		主催	受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名		特許番号	登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			